

東京蜘蛛談話会 2012 年度採集観察会

1. 期 日：第 1 回 2012 年 5 月 13 日（日）第 2 回 2012 年 7 月 8 日（日）
第 3 回 2012 年 10 月 14 日（日）第 4 回 2013 年 2 月 10 日（日）
2. 場 所： 神奈川県小田原市いこいの森・わんぱくランド
3. 集 合： 東海道線小田原駅西口（新幹線側）を出たところのバス停
午前 10 時 20 分発「いこいの森」行きバスに乗車します。
所要 15 分，終点下車。
4. 世話人： 池田博明
携帯 TEL：090-9670-1525（ほとんど携帯していませんが）

バス料金は片道 280 円。バスは 1 時間に 1 本しかありません。わんぱくランド（こども遊園地）は樹高 5m でのムツガイセキグモの発見地ですが，冬の卵のう以外は確認されていません。観察コースはわんぱくランドを横断して「いこいの森」へ入り，「いこいの森」からバス停へ戻る予定です。

東京蜘蛛談話会 2012 年度合宿のお知らせ

2012 年度の合宿は，東京，中部，三重，関西の 4 同好会合同で，次のように実施いたします。第 2 回全国統一合宿です。みなさん奮ってご参加ください。

1. 期 日： 2012 年 7 月 27 日（金）から 29 日（日）
2. 場 所： 飛騨地方
3. 宿 舎： 山久（やまきゅう）高山市天性寺町 58 0577-32-3756
4. 費 用： 宿泊費（2 日間の昼食も含む）に備車費（燃料費）等を加え，1 泊 1 万円くらいを予定しています。
5. 担 当： 初芝伸吾 HATSUSHIBA, shingo

東京蜘蛛談話会例会

2012年4月29日 東京環境工科専門学校にて
参加者一同



(1) 生きものとしての
クモ - 新クモ基
本50種の生活

池田博明



(2) 火山活動が大型
土壌動物相の分布と
個体数に与える長期
的な影響

柊 雅実



(3) 台湾・香港で採
集したハエトリグモ

須黒達巳



(4) 電子顕微鏡で見
たクモの微細構造(1
2)

梅林 力



(5) 尽きぬトリノフンダ
マシ類の研究課題
(6) 日本にまだいた
ハシリグモ

谷川明男



(6) バリオ(ボルネ
オ)の美しいクモ

浅間 茂



2011 年度決算

東京蜘蛛談話会

収入の部

2012 年 4 月 29 日

項 目	決算額(¥)	備 考
1. 会費	781,000	欄外 1
内訳 a.11 年度会費	316,600	
b.12 年度以降前納会費	464,400	
2. 寄付等	0	
3. 雑収入	0	
4. 別刷り代	59,547	
5. 利息	466	
収入合計	841,013	
6. 繰越金		
(1)11 年度以降前納会費	425,000	
内訳 a.11 年度分	382,400	
b.12 年度分	27,400	
c.13 年度分	7,600	
d.14 年度分	7,600	
(2)特別会計(プール金)	1,729,838	
繰越金合計	2,154,838	
合計	2,995,851	

支出の部

項 目	決算額(¥)	備 考
1. 会誌作成	409,877	99,100 号
2. 会誌発送	33,770	
3. 別刷り作成・発送	137,326	
4. 談話会通信	58,266	132,133,134 号
5. 事務局等通信費	31,457	
6. 事務用品等	0	
7. 予備費	0	
支出合計	670,696	
8. 繰越金		
(1)12 年度以降の前納会費	507,000	
内訳 a.12 年度分	408,200	
b.13 年度分	60,800	
c.14 年度分	22,800	
d.15 年度分	7,600	
e.16 年度分	7,600	
(2)特別会計(プール金)	1,818,155	
繰越金合計	2,325,155	
合計	2,995,851	

繰越金の預け先：郵便貯金(普通) ¥1,404,703
振替口座 ¥847,747
現金 ¥72,705
合計 ¥2,325,155

欄外 1：11 年度会費は、前納分 382,400 円とあわせて 699,000 円受領

以上、報告いたします。2012 年 3 月 31 日 会計 安田明雄

適切に会計処理されています。2012 年 4 月 23 日 会計監査 加藤輝代子

クモが出てくる子どもの本情報 (9) 2010-11 年に出版された雑誌 1 点と児童書 3 点の紹介

萩野 康則

今回は 2010 年に出版された雑誌 1 点と 2011 年に出版された児童書 3 点を紹介させて頂く。

新海 栄一（監修）「くも」 しぜんのくに 2010 年 10 月号 B5 変判/36pp. 鈴木出版 税込 390 円

池田博明さんが管理運営してくださっている、談話会のウェブサイト中に「クモ TOPICS」というコーナー<<http://www.asahi-net.or.jp/~hi2h-ikd/tss1.html#topics>>があって、クモに関係のある種々の情報が頻繁にアップされている。そこへの昨年 12 月頃の書き込みで、本書の存在を知った。

「たくさんのふしぎ」や「かがくのとも」などの福音館書店の月刊子ども向け雑誌や、フレール館の「しぜんキンダーブック」は図書館でもよく購入・配架されているので、出版情報を得やすい。しかし鈴木出版の「しぜんのくに」はあまり購読館が無いようで（少なくとも私がよく訪れる図書館数館では見掛けない）、なかなか気付かない。この新海栄一さん監修の「くも」も、池田さんの情報を見るまで、全く知らなかった。

内容は、網のさまざま、網の張り方、獲物の採り方と食べ方、非造網性種の紹介、交接～産卵～孵化～団居～パルーニング～定着～脱皮成長の過程、益虫としてのクモ、民俗的な内容（網でセミ採り・低いところに網を張ると雨になるという俗信）、さがしてみよう、豆知識（ミズグモ・天敵・糸のでき方・大きなクモ小さなクモ）である。これらの各項目を、新海さん撮影の写真を中心に、千国安之輔さんや高野伸二さんのものも交えて分かりやすい写真を豊富に掲げ、簡潔な文章で解説している。また、保護者向けの脚注部ボックス内の「ガイド・ポイント」では、クモに関して誰でも疑問に思うような内容が、実にコンパクトに解説されている。

網の張り方の説明では、「枠糸」を「あみのそとがわのいと」、「足場糸」を「よこいとをはるときにあしをかけるいと」と言い換えることによって、巧みに専門用語を避けている。また、クモの糸に関するガイド・ポイントには「クモが網の中で移動するときには、粘球のないタテ糸だけを歩いているため、自ら作った網に足を取られることはあまりありません」と記されている。



私はこの「あまりありません」の「あまり」に、新海栄一さんの誠実さを強く感じた。

「しぜんのくに」は一般書店では販売していない雑誌なので、直接出版社（03-3945-6614）に連絡して購入することになる。送料と代引き手数料として、部数にかかわらず700円が掛かる。出版社に確認したところ、残部は僅少だということなので、注文される方はお早めに！

三福 麻侑未（作）・田中 伸介（絵）「クモノス」

A5判/20pp. 文芸社 2011年6月発行 ISBN978-4-286-10263-4 本体1,000円



街道筋の新古書量販店でたまたま発見した本である。表紙とカバーは円網を枠ごとに淡い水彩で塗り分けられ、そこに窓や虫を配してある。小振りな判型にこの洒落たカバーを配した装幀により、つい手に取りたくなくなってしまふような造本になっている。

少年がある朝学校へ行く途中、バス停小屋の窓に大きなクモの巣が張られているのを見つけた。その巣には水玉がついてダイヤのネックレスのように輝いていたが、クモの姿は無かった。下校時にバス停小屋に立ち寄ると、今度は「体長6センチくらいの黄色と黒の縞模様のクモ」がいた。体長6cmって、オオジョロウよりデカイだろ！と、ツッコミを入れたいが、脚も入れての大きさなのだろう。少年はそれから毎日、クモに餌を運び、網にかけて食べさせた。ある晩、夢に老婆が登場して...。「クモの恩返し」的な、不思議

な読後感のものがたりである。

作品中、クモの姿が出てくるのは、扉に描かれたペンダントの、ルビーのような石の中に包埋されているジョウロウグモとおぼしきクモだけである。網も一場面だけに登場する。大変きれいに描き込まれているが、残念ながら渦巻きではなく同心円状になっている。

作の三福麻侑未（さんぶく まゆみ）さんについては、本書の著者紹介に「水瓶座、B型、九紫火星」などとあるだけで、ネットで探しても本書「クモノス」と関連した情報以外、全く見つからない。出版元の文芸社は、後述のように自費出版や共同出版に力を入れている会社であるので、この本も在野の方の自費出版的な出版物なのかもしれない。

絵の田中伸介さんは、会社員から漫画家アシスタントを経て独立した絵本作家・イラストレーター。絵本作品に、文字を一切使わずに人と犬の出会いと別れを描いた二部作で、哀しくも印象に残る作品である「しあわせのはね」（2000年）「きんいろのはね」（2004年、共に文芸社）

や、一転してほのぼのとしたユーモアにあふれた「カピバラくん」（理論社，2003 年）などがある。また、挿絵作品に「おこりんぼの魔女のおはなし」（ハンナ・クラーン/著・工藤桃子/訳，早川書房，2005 年），「カップニャードルとまほうの箱」（巻左千夫/作，講談社，2008 年）などがある。元漫画家アシスタントだけあって，「カップニャードル」ではポスターカラーベタ塗りのな，色ムラのない鮮やかな絵を描かれている。しかし他の作品を見ると，水彩や色鉛筆系の，淡い色調の画風を好んで描かれるようである。

なお，先に述べたように出版元の文芸社は，自費出版・共同出版に力を入れている会社であるが，著者との間でトラブルが起きた例が，少なからずあるようである。本書の内容とは直接関係ないので本稿ではこれ以上深入りしないが，例えば身近なところでは，本会会員の松田まゆみさんがトラブルの当事者となっている。ご自分のブログ「鬼蜘蛛おばさんの疑問箱」でその経緯について詳細に報告されている<<http://onigumo.sapolog.com/c3927.html>>ので，興味のある方はそちらをご覧ください。

見山 博（絵・文）生きもの摩訶ふしぎ図鑑「暗闇の生きもの摩訶ふしぎ図鑑」

四六判/120pp. 保育社 2011 年 7 月発行
ISBN978-4-586-31307-5 本体 1,800 円

本紙 133 号の「クモが出てくる子どもの本情報 (7)」で，「『暗闇の生きもの摩訶ふしぎ図鑑』（見山博/文・絵，2011 年 7 月）などという，いかにもクモが登場していそうなタイトルもあるが，残念ながら現物をまだ見ていない。内容を確認した上で，いずれ紹介できればと考えている。」と記した本である。しかし結論から言ってしまうと，残念ながら期待していたほど，クモは登場していなかった。

不思議な生物に焦点をあてた「生きもの摩訶ふしぎ図鑑」シリーズの 9 冊目である。ただしシリーズの他の冊と同様，図鑑と銘打ってはいるが，各項目ごとにイラストや写真を多用して解説した読みものである。

絵と文の見山博さんは，産経児童出版文化賞受賞の「ジュニア版ファール昆虫記 全 8 巻」（2005 年）や「完訳ファール昆虫記 全 10 巻」（2005 年～刊行中，いずれも J.H.ファール/著，奥本大三郎/訳，集英社）などに画を描かれている方で，精密な昆虫画はもちろんのこと，漫画も描くことのできる，希有なイラストレーターである。しかも見山さんは美術系の学校の出身ではない。愛媛大学農学部で昆虫学を専攻され，在学中は探検部に所属し，洞穴にも多く潜ら



れている方である。専門は洞穴性昆虫で、チビシデムシ類の1新属3新種を命名記載されており、本書は著者の専門性を生かした渾身の一冊なのである。

中心となるのは「ようこそ、暗闇の世界へ」と「これが暗闇の生きものたちだ！」の二つの章であり、これに洞穴学に関する補足的な知識を紹介する「ホラグマ先生のホラアナ講座」コーナーと、未解明のトピックスを取り上げたコラム「わからないことがいっぱいだ」が随所に加えられている。

「ようこそ、暗闇の世界へ」では洞穴生物の発見から洞穴生物学の成立と発展、そして洞穴生物の起源について、分かりやすくコンパクトにまとめてある。

「これが暗闇の生きものたちだ！」が本書の主要部分で、目から亜科単位で、28のグループの洞穴生物の姿と生態が紹介されている。真正クモ類ではコアシダカグモ、ニッパラマシラグモ、アキヨシホラヒメグモが、それ以外の蛛形類としてはカニムシ2種、サソリ2種、ウデムシ1種、ザトウムシ1種が、絵入りで登場する。また、文字情報だけだが、メナシヒメグモとウエノメナシコブヌカグモもでてくる。

日本ではホラヒメグモ属の種分化が激しく、50種以上も発見されていて、まだまだ増える勢いなのに、ヨーロッパではどこの洞穴でも同じ種類ばかりで、全ヨーロッパで2種しかいない、ということも紹介されている。

一点だけ注文をつけるならば、「ホラグマ先生のホラアナ講座」その10の「採集と標本」中に、採集品は50%アルコールに入れて標本にするように書かれているが、50%では濃度が低すぎる。

私を知る限り、洞穴生物が取り上げられている児童書としては「科学のアルバム しょうにゅうどう探検」（徳富一光/著、あかね書房、1974年〔2005年新装版として再刊〕）と「どうくつをたんけんする」（堀内誠一/作、月刊「たくさんのふしぎ」1985年10月号、福音館書店、〔1990年「たくさんのふしぎ傑作集」として単行本化〕）があるが、洞穴生物に割かれているスペースはいずれも僅かである上に、後者は品切れである。また、一般向けの洞穴生物学の入門書としては「洞穴学ことはじめ」（吉井良三/著、岩波新書、1968年）、「洞穴から生物学へ」（吉井良三/著、NHKブックス、1970年）や「洞窟学入門」（上野俊一・鹿島愛彦/著、講談社ブルーバックス、1978年）などがあるが、これらも全て品切れで、入手は困難である。そのような状況下、本書は大人にも読み応えのある、恰好の洞穴生物学ガイドになっている。特に多種多様な洞穴性動物の姿を概観するには最適の一冊である。

久留島 武彦（作）・古内 ヨシ（絵） くるしま童話名作選2「子ぐものいのり」

B5判/32pp. 幻冬舎ルネッサンス 2011年11月発行 ISBN978-4-7790-0725-5 本体1,300円

幻冬舎といえば今をときめく見城徹社長の出版社である。その関連出版社が幻冬舎ルネッサンスで、自費出版に力を入れている。本シリーズ「くるしま童話名作選」も、作者の出身地である大分県玖珠町が企画したものである。シリーズ既刊に本書と同じ古内ヨシさんの絵による「とも

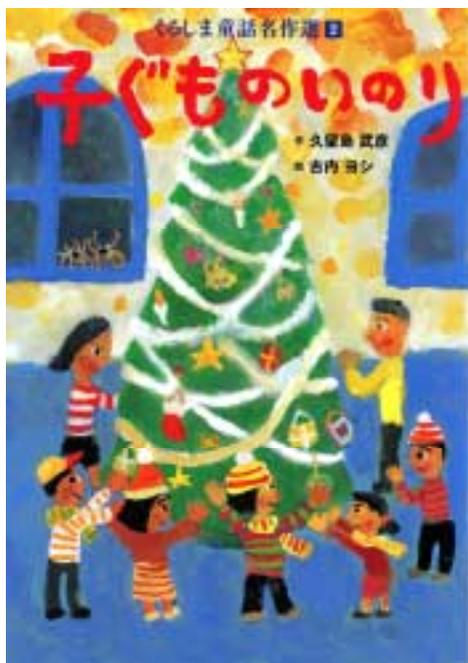
がき」(因みに「ともがき」は「友垣」と書くことを、本書のあとがきで私は初めて知った。恥ずかしなはずと「友餓鬼」だと思っていた)と、遠山繁年さんの絵による「ゆめうりふくろう」がある。

教会の天井の隅にクモの親子が住んでいた。ある冬の朝、大勢の人が教会に入ってきて、大掃除をしたあとにモミの木を運び込み、飾り付けをしてクリスマスツリーに仕立て上げた。きれいなツリーを見てうれしくなったクモの親子はツリーの上を歩き回った。気がつくともツリーは引き糸だらけで、汚くなってしまっていた。あわててその糸を外そうとしたが、人が戻ってきてそれできない。ああ、どうかこの糸のせいでツリーが汚く見えませんように、と一所懸命神様に祈ると...

クリスマスツリーの飾り付けに金銀モールが使われるようになった由来の物語で、敬虔なキリスト教信者だった作者らしい内容である。

作の久留島武彦さんは、1874年大分県玖珠郡森町(現・玖珠町)に生まれた方である。日本最初期の児童文学者の一人で、子どもたちに童話を読み聞かせる口演童話の普及に尽力した。童話の口演を行った幼稚園・小学校は全国6000を超えるという。また、日本のボーイスカウト運動の基礎作りにも関わった。この運動の一環として訪れたアンデルセンの生地であるアンデルセンの復権を訴え、デンマーク国王よりダンネブロウ四等勲章を受け、「日本のアンデルセン」と呼ばれるようになったそうである。

絵の古内ヨシさんは、学習障害の一種である難読症というハンディキャップを抱えながら、美術の道に進まれ、映画のポスター、テレビや新聞広告のイラスト、本の挿絵や表紙などで多くの仕事をされている方である。1990年代からは絵本作品にも携わるようになり、代表作に「テコリンちゃんとピエロ」「テコリンちゃんとアイスクリーム」(いずれもフレーベル館,1996年)、「おばけのムニムニ」(あかね書房,2002年)などがある。大胆な色づかいと素朴なタッチは子どもに分かりやすいし、大人が見てもどこかホッとさせる絵である。



東京蜘蛛談話会の会費は、一般 3800 円、学生 2000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費のことは：会計担当 安田明雄 〒231-0861 横浜市中区元町 5-219

TEL : 045-641-0763 E-mail : kobato@gol.com



クモのおもちゃ



タランチュラ



眼が2つしかないコモリグモ

2 眼のクモ

谷川明男

多くの場合、クモのおもちゃには眼が2個しかついていません。作者がクモに眼がたくさんあることを知らないか、あるいは眼がたくさんついていると気持ち悪いので、見た目がかわいらしくなるように眼を2個にしているのだらうと、そんな風に思っていました。でもある時、飼育しているタランチュラの顔をふと見てみると、眼が2個に見えるのでした。実際には2かたまりの眼群が、少しひいてみると2個の眼に見えるのです。おもちゃの作者も単に思い込みや作為でクモの眼を2個にしているのではなく、実際にタランチュラなどを見て眼が2個だと判断している場合もあるのではないかと思い始めました。そんなあるとき、クモの同定依頼に来ていた人が、「次はこれをお願いします。2眼のコモリグモなんですけど....」と標本瓶を取り出したのです。私は一部だけを見て2眼だと思い込んだのだらうと思ったのですが、標本を見てみると、なんと本当に眼が2個しかないでした。残念ながら幼体で種同定はできなかったのですが、体の模様からするとどうもキタコモリグモ属のクモのようです。眼の大きさや位置からは、後中眼だけが形成された奇形のように見

えました。本物のクモに眼が2個しかないのは、なんだか不気味です。

入退会は：事務局 初芝伸吾 186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203
(有)エコシス

E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月総会まで、8月末、12月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail : fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

キシダイアの原稿締め切りは、6月末日と12月末日です。